

## ワークショップ「コーパスとモダリティ」

木部暢子（国立国語研究所）

### 1.企画趣旨

モダリティとは、話し手の心的態度だと言われます。日本語の場合、「雨がふるらしい／ふるようだ／ふるにちがいない」などの「らしい・ようだ・ちがいない」などの形式があります。このシンポジウムでは、方言、歴史、学習者、現代日本語のそれぞれのコーパスを通して、モダリティ研究の可能性について発表し、議論します。

### 2.プログラム

小木曾智信（国立国語研究所）

「通時コーパスに見るモダリティ形式の変遷」

木部暢子（国立国語研究所）

「方言コーパスに見るモダリティ形式のバリエーション」

小磯花絵（国立国語研究所）

「日常会話コーパスに見るモダリティの多様性」

迫田久美子（広島大学／国立国語研究所）、佐々木藍子（国立国語研究所）、

須賀和香子（国立国語研究所）、細井陽子（国立国語研究所）

「学習者コーパスを活用したモダリティ研究の可能性」

浅原正幸（国立国語研究所）

「モダリティアノテーションとその統計分析」

ディスカッション